



【様々な戦いに対する防備と勝利③-正義の胸当て-】

説教者:鄭南哲牧師

(ひたすらイエスキリストの十字架の義によって!)

(Rev.Jung nam-chul)

聖書本文:エペソ人への手紙 6章 10-14節/暗唱聖句:ピリピ人への手紙3章9節

愛する教会の家族のみなさん！一週間も主の平安の中でみんなお元気でしたか。今日はわれらの人生の中、絶えず襲い掛かって来る霊的戦いに備えてどう対抗し、勝利をおさめていくことが出来るのか三回目の時間です。「胸には正義の胸当てを着け：正義の胸当て」について神様の御言葉を分かち合いたいと思います。

先週の御言葉を覚えていますか。もろもろの悪霊どもはただ今の礼拝の時ですえも、皆さんが神様の御言葉の前で集中できないように様々な思い、雑念などで妨げているかも知れません。今週一週間も最善を尽くして頑張ってきて来たみなさん！今この礼拝の時から勝利者になりましょう。礼拝の時間から負けてしまうと、また一週間も勝利していくのにはもっとむずかしくなるのではありませんか。今日礼拝の時間、神様に集中し、主の御言葉に心を開いて謙遜に受けとめ、神の臨在と回復の恵みとともに体験され、強められる時間となりますように心からお祈り申し上げます。

<正義の胸当てとは？> ①当時軍人にとって胸当ての役割

使徒パウロの時代、ローマ軍の胸当ては上半身を守るために6-7個の鉄板をつなげて作ったそうです。その胸当ての内側は動物の皮とか、ひもなどで結び付けられていました。敵の剣から心臓(命)と体を守るだけでなく、皮膚がやぶれないように首に皮の保護巻きまでまいたそうです。当時の胸当ては20ポンド(10kg)ぐらいで、(1ポンド=約0.5kg=10kg)意外と他の軍隊の胸当てとは比べられないほど、軽いほうだったので、ローマの軍隊が世界を治めるほど、強くなるのに、かなりこの胸当ては貢献したそうです。

敵軍からの剣で、槍で、矢の攻撃で軍人の体の中で一番突き刺しやすい、攻撃されやすいところが当然上半身の胸やお腹のあたりでしょう。何よりも心臓を守らなければなりません。胸当てはこのような様々な攻撃から自分の命を守るための一番大事な防御と防備の手段となりました。

<神の正義の胸当て((breastplate of righteousness))とは？>

*「聖書の義」というのは、旧約聖書で、「チェダカ(ヘブル語)」150以上書かれています。

新約聖書では、ギリシャ語では「ディカオスイネ」90以上書かれています。ここで「義」と言うのは、**関係と関連がある言葉**であって、**その関係の中で要求される義務を誠実に遂行(すいこう)すること**であります。ですから、ここで「神の義」というのは、**神様との関係の中で人が神に喜ばれ、神の御心に叶(かな)い、神に受け入れられる条件と状態**を意味しますが、**決して人の行いよって神の望んでおられるその条件を満たし、全うすることは決して不可能であると聖書は明らかに教えて下さっています。人はみんな神の前で罪を犯してしまい、墮落し、不義の中にいる存在だからです。使徒パウロは、それについてこう教えて下さっています。**

***ローマ人への手紙3章9節~20節**に、「9では、どうなのでしょう。私たちはすぐれているところはあるのでしょうか。全くありません。私たちはすでに指摘したように、ユダヤ人もギリシャ人も、すべての人が罪の下にあるからです。10次のように書いてあるとおりです。「義人はいない。ひとりもない。11 悟る者はいない。神を求める者はいない。12 すべての者が離れて行き、だれもかれも無用の者となった。善を行なう者はいない。だれ一人もない。」13「彼らののどは開いた墓。彼らはその舌で欺(あざむ)く。」「彼らのくちびるの下にはまむしの毒がある。」14「彼らの口は、のろいと苦みに満ちている。」15「彼らの足は血を流すのに速く、16 彼らの道には破壊と悲惨がある。17 彼らは平和の道を知らない。」18「彼らの目の前には、神に対する恐れがない。」19 私たちは知っています。律法が言うことはみな、律法の下にある者たちに対して語られているのです。それは、すべての口がふさがれて、全世界が神のさばきに服(ふく)するためです。20 **なぜなら、人はだれも、律法を行なうことによっては神の前に義と認められないからです。律法を通して、生じるのは罪の意識が生じるです。**」

みなさん! 悪霊どものかしらである「サタン(Satan)」ギリシャ語で‘ディアブロス’と言われますが、「告発者、告げ口する、けなすもの、分裂させる」意味があります。黙示録 12 章 10 節「私は、大きな声が天でこう言うのを聞いた。「今や、私たちの神の救いと力と王国と、神のキリストの権威が現われた。私たちの兄弟たちの告発者、昼も夜も私たちの神の御前で訴える者が、投げ落とされたからである。」」

悪魔は日夜私たちを神の御前で訴え続ける告発者だと書かれています。日夜、たえず、しつこく告発することが悪魔の使命なのです。ですから、悪魔に他人を悪し様(あしざま)に訴えるなどというのは悪魔に向かって“おまえは消え!”と同じです。サタンともろもろの悪霊どもの告発は絶えず私たちを心に、信仰を絶望させ、ついには死に至るまで攻め続けます。そのものたちの目的は我らの人生を、すべての関係を打ち壊すためです!決して神様の御言葉のような真理に基づくのではなく、人間の感情と怒りに訴えます。ですからいつも結果は良くないのです。はたして、いま自分の心と考えは聖霊から来るものなのか、サタンの攻撃からくるものなのかどうやって分かり、見極めることができるでしょうか。それが愛なのか憎しみなのか、関係を壊すことなのか守るためなのか、一つになるためなのか分裂になるようにさせるのか、人を生かすものなのか人が倒そうとするものなのかで考えて見れば、よく見極める知恵が必要でしょう。

ただ度を過ぎるほど自分自身に対する罪責感、劣等感、挫折、怒りと自己正義と価値観にとらえられ、絶えず周りを批判し、攻めたり、悲観的になってしまうため、結局家族、益々周りとの関係の中たくさんの問題がたえず起こし、まったく無気力にさせ、生きる望みを持たないようにさせています。今日の御言葉通りにサタンは人の心を激しく攻撃していることは忘れてはいけません。人の弱さに絶えず攻撃し、感情的にならせ、人の心が落ち着かず、色々なものに中毒され、全くコントロールができないようにしようとします。

今日の御言葉ではサタンともろもろの悪霊たちの攻撃に対して、正義の胸当てを胸に着けなさいと命令されています。正義の胸当てとは、サタンの猛烈な攻撃とそしりに対して自分の身を、自分の心を、自分の信仰と命を守り、防ぐことが出来る防御手段であり、悪に対抗する強力な戦略武具となります。

<どうやって神の正義の胸当てを身に着けることが出来るでしょうか。>

①不義の中罪の中にいる人たちをほったらかなかった義なる神の愛

*イザヤ書5章16節「聖なる神は正義によって、みずから聖なることを示される。」

*イザヤ書30章18節「それゆえ主は、あなたがたに恵みを与えようとして待ち、それゆえ、あわれみを与えようと立ち上がられる。主が義の神であるからだ。幸いなことよ、主を待ち望むすべての者は。」

*第二コリント人への手紙5章21節「神は、罪を知らない方(イエスキリスト)を私たちのために罪とされました。それは、私たちがこの方であって、神の義となるためです。」

②イエスキリストを信じる信仰による我らを義認とされる神の義(信仰義認(しんこうぎにん))

*ローマ人への手紙1章17節「なぜなら、福音のうちには神の義が啓示されていて、その義は、信仰に始まり信仰に進ませるからです。「義人は信仰によって生きる。」と書いてあるとおりです。」

人による義ではなく、イエスキリストの十字架の血潮によって私たちのすべての罪を赦し、義とされた、神の義を信じ頼ることなのです。

*ピリピ人への手紙3章9節「キリストの中にある者と認められようになるためです。私は律法による自分の義ではなく、キリストを信じることによる義、すなわち、信仰に基づいて神から与えられる義を持つのです。」

ご一緒にローマ人への手紙3章21節から30節までは、すべての罪人であって不義の中にいた人がどうすれば神の義とされ、至れるのかその道を明確に教えて下さいました!

「21 しかし今や、律法とは関わりなく、律法と預言者たちの書によって証しされて、神の義が示されました。

22 すなわち、イエス・キリストを信じることによって、信じるすべての人に与えられる神の義です。そこに差別は

ありません。

23 すべての人は罪を犯して、神の栄誉を受けることができず、

24 神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められるからです。

25 神はこの方を、信仰によって受けるべき、(キリスト・イエスを、その血による、また信仰による、なだめの供え物として：新改訳 3 版) 血による宥(なだ)めの捧げ物として公に示されました。ご自分の義を明らかにされるためです。神は忍耐をもって、これまで犯されてきた罪を見逃して来られたのです。

26 すなわち、ご自身が義であり、イエスを信じる者を義と認める方であることを示すため、今この時に、
ご自分の義を明らかにされたのです。

27 それでは、私たちの誇りはどこにあるのでしょうか。それは取り除かれました。どのような種類の律法によってでしょうか。行ないの律法でしょうか。いいえ、信仰の律法によってです。

28 人は律法の行ないと関わりなく、信仰によって義と認められると、私たちは考えているからです。

29 それとも、神はユダヤ人だけの神でしょうか。異邦人の神でもあるのでしょうか。

そうです。異邦人の神でもあります。

30 神が唯一なら、そうです。神は、割礼のある者を信仰によって義と認め、割礼のない者も信仰によって義と認めてくださるのです。」

それでローマ人への手紙 8 章 1-2 節「こういうわけで、今や、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。なぜなら、キリスト・イエスにあるいのちの御霊の律法が、罪と死の律法から、あなたを解放したからです。」

この箇所の内容は“転移された義(信仰義認)”について言われています。すなわち、自分が義人だからではなく、イエスキリストの義が信じる自分に転移されて救われることができるということです。

当然イエスを信じているのにもかかわらず、今すぐ私たちの生活のパターンがすべて変わらないかも知れません。今だに自分の生活の現実は、正しくないまま行方が多いです。だから人がいくらの行いによっても、神様に救われるほど義と認められることはできず、その義とも変わる不完全なものです。しかし、イエスキリストの十字架の罪赦しと救いの正義のゆえに、それを受け入れ信じる私たちは、イエスキリストを通して、神様はすべての罪が赦され、救われた義人だと見なし、認めて下さっているわけです。

イエスキリストによる正義の胸当ては、我々の信仰の心、志し、神様からの使命などを打ち壊そうとする悪しき者たちのさまざまな攻撃や策略から私たちを守ってくれます。この真理の信仰をつかんで前進して行けば、自分の心と人生が守られ、私たちの大切な関係が揺るがず守られ、神の与えられている人生の使命を果たしつつ進み行けると信じます。この正義の胸当てとなるイエスキリストによる義をしっかりと胸に抱いている人は、安心し、輝きます。みんなが罪人なのに“許された罪人、救われた罪人、きよい罪人たち”になっているからです。そして、そのイエスキリストが今も私を救い出してくださっただけでなく、今も共におられ守って下さっているので、感謝と感激があり、喜びがあります。

<悪しき者らが攻め続ける時に！>

例) 19 世紀アメリカの有名な D.L.ムディという牧師先生がいました。ある日礼拝を終えたあとある青年がこの先生に尋ねてきてこう言います。“先生、私は罪人です。本当に私は罪人です。”と言いながら、いつも自身は罪責感にとらえられ苦しんでいると相談しました。その人にムディ先生が問います。“あなたはイエスキリストを信じているクリスチャンですか。”“はい、そうです!” “そうしたら、聖書の御言葉通りに、心からイエスキリストの御名によって、自身の罪を言い表し、告白し、その罪から離れることを決心しましたか。”青年は“もちろんです。何度もそうしました! でも、私なんかの者が続けてイエス様を赦される資格はないと思ひまして、もう教会に入る資格何かあるのか、礼拝にも来ない方がよいのではないかと思ってたり、どうしましょうか。”と言いました。すると、ムディ先生は彼にもう一度問います。“あなたはイエスキリストがあなたのすべての罪を背負い十字架で死なれ、あなたのすべての罪を赦すため

に十字架で血潮を流して下さったことを本当に信じますか。”

彼はもちろん信じていると答えます。するとムディ先生は突然こう厳しく言いました。“それなのにあなたはいったい何者であって、イエス様でさえもすでにあなたのすべての罪を赦し、忘れておられるのに、あなたが自身を許せないと言っているのですか。それは謙遜ではなく、不信仰であり、高慢です！あなたが間違いなく、イエスキリストを受け入れ、信じて、あなたの罪を悔い改めたなら、もうあなたはイエスキリストにより、赦され、救われ、神は義と認められおられますから安心なさい！その信仰を立たせ、信仰によって行きなさい！”

単純なエピソードですが、結構いろいろ考えさせられるお話ではありませんか。愛するみなさん！もしみなさんの中でも今だにも過去のくらい罪のかけのため苦しんでいませんか。もちろん、罪を犯すことや、悔い改めることを今日のクリスチャンの中であまりにもかるんじく思ってしまうことも警戒しなければなりません、悔い改めてもずっと続けて罪責感に捕らわれているなら、それは決して神の御心ではなく、悪しき者の攻撃と妨げであることをちゃんと見極めて対応して行きましょう。心から神に自身の罪を告白し、悔い改めた者に、イエス様がすでにその罪を赦して下さって、いっさい覚えることがないとおっしゃっているのなら、それで全部清算済み！もう神様からの罪の報いはないということです。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！覚えてください。悪魔はある人を非難する時、かならず、今のことを訴えるのではありません。5年前犯した罪、10年前犯した罪、むかし小さな時犯した罪まで全部あばきます。神様はイエスキリストの血潮によって私たちが義とされ、すべての罪を全部赦して下さったのに、サタンは決して私たちが犯した罪を忘れません！！そしてみなさんにいつも“お前は救われる資格のない罪人だ。おまえはあやまちがありすぎる。お前がどんなに努力してもどうせ無駄だろう！”と挫折と失望の畏に陥らせ、一生抜け出されないように、自由にされないようにささやきます。

その時私たちはどうやって戦うべきでしょうか。その時、みなさんがいや違うと否定すると、その策略と戦いには負けやすくなります。悪魔の攻撃に、私たちの言い返しはその通りだと認めることです。

“そうだよ！私はたしかに死ぬべき罪人だよ!! サタンは牧師である私にでさえたびたび皮肉ったりします。“お前のようななんじゃくな者、失敗だらけの者、罪だらけの者が牧師なの！お前のような罪人が魂を救おうとするなんて、キリストの福音をうんうんするな！”たしかに私自身はいくら考えてみても自分が牧師としてふさわしくないと思う時がしばしばあります。牧師もみなさんと同じように人であり、同じく足りないところも多く、あやまちも多く、自分自身をさぐると、いかに罪と問題だらけなのかはすかしいと思った時も結構あります。

しかし、みなさん！このようにサタンからの攻撃が来る時に、今まで自分がどれほど頑張ったのか、どれほど正しかったのか、どれほど良いことをたくさんやって来たのか自分の功労、自分の経験、自分の努力で自分を防備しようと、戦おうとすると、十中八九（じゅうちゅうはっく）負けてしまいます。しかし、私はサタンからの告発にいったんそうだと認めます。いや、私の場合はむしろもっと正直に付け加えます！“サタンよ、そうだ。私はあなたが思う以上の罪人だ。！私はまさしく、もともと死ぬべき、永遠の地獄に陥るべき罪人だった！あなたが訴えている何倍ものも悪い罪人かも知れない。”しかし、決してそこでとどまったり、終わってはいけません。次の段階には自分をイエスキリストの十字架の前に立たせます。自分の義ではなく、代わりにイエスキリストの義を信じ立てさせ、頼ります！

“私は義なる神の御前では地獄に陥るべき罪人だが、私の救い主なるイエスキリストは私のため、私のすべての罪のために、十字架の上ですすでに罪の代価を払って下さったので、そのイエスキリストの義の御業により、私はすべて罪が赦され、救われ、罪の奴隷ではなく、神の子どもとなったのだ。もはやキリストイエスイエスにあって、新たに生きる人生の希望と使命を頂いた者だ”と堂々と立ち向かわなければなりません。

自分自身に何の義もないが、イエスキリストを信じることにより、神は私を義人とされたということをいつも忘れず、堂々と証ししつつ、自分を大切に守っていかねばなりません！これがまさに正義の胸当てをつけることでしょう。

“自分の義ではなく、イエスキリストによる義を”胸にしっかり抱くことが自分の人生を、永遠の命を、自分の信仰を守りぬける道なのです。

イエス様の十字架からの罪赦しによって見なされた神の義を離れず、忘れず、抱き、掴み取ることを意味します。正義の胸当てであるイエスキリストの十字架の義によって、私たちはサタンからの攻撃から揺らぐことなく、様々な戦いに対して自分を守り、防ぐことができます。イエスキリストによる正義の胸当てを着けることにより、自分の命と人生が、自身の心が、自身の信仰と全ての関係が守られるのです。

愛するクリスチャンプレイズチャーチのみなさん! 霊的勝利者となるため、真理なる神の御言葉を、真理であられるイエスキリストのおびをしっかり締めて、胸に子心の中には、正義の胸当てをつけなければなりません。

この世は今も人間的な道德基準で人を評価し判断します。もちろん、私たちクリスチャンは不信者よりもっと公正と正義を保ち、道徳的にも正しく模範にならなければなりません。しかし、我らの信仰と神の赦しと救いとは決して人の義に基礎をおいたわけではないことを覚えましょう。だれが道徳的に完璧な人がいるでしょうか。一切欠点のない人って存在するのでしょうか。そのような人だと自称出張しても、正義なる神様の目の前ではみんな一緒かも知れません。

飛行機の中で窓の外をみたことがありますか。一階建物、10階、50階の建物も上から見ると、みんな同じ高さで見えるのではないのでしょうか。罪人である人間同士がお互いにどちらがもっと清いのか、どちらがもっと正しいのかが神様に何の意味があるのでしょうか。そういうわけですから、私たちが抱き、つかむべきことは人間からではなく、イエスキリストによる十字架の義をつかむべきです。

正義に胸当てを着けている人たちの特徴は一つです。それは十字架のイエスキリストのことを誇り証します。正義の胸当てを着けている人は、イエスキリストがすでにすべての不義の中にいた人のために、成し遂げてくださった神の義の御業のことを誇ります。自然に、キリストの十字架を通しての罪赦しを誇り、イエスキリストの愛を誇り、神の恵みを追い求め、神に栄光を返し、また表す姿に変えられます。この姿こそが勝利した人の証しではありませんか。

<キリストの正義の胸当てを着けている人の正義の行い>

*マタイの福音書23章23節「わざわざだ。偽善の律法学者、パリサイ人。おまえたちはミント、イノンド、クミンの十分の一を納めているが、律法の中ではるかに重要なもの、正義とあわれみも誠実をおろそかにしている。十分の一もおろそかにしてはいけないが、これこそしなければならぬことだ。」

*ミカ書6章8節「主はあなたに告げられた。人よ、何が良いことなのか、主があなたに何を求めておられるのかを。それは、ただ公正(正義)を行い、誠実を愛し、へりくだって、あなたの神とともに歩むことではないか。」

今日、クリスチャンの年数がながくなればなるほど、いざ自分自身を誇り、自分の経験を誇り、自分の奉仕と活動を誇る人々をみかけるのは難しくありません。今日、多くのクリスチャンたちが弱くなっている理由は、ここにあるのではないかと思います。イエスキリストによる正義の胸当てはどこかに外してしまい、必死に、自分自身の力で自分を守ろうとするのに、胸にはすでに敵の矢が立ったまま呻(うめ)いている信徒たちがどれほどいるのでしょうか。

今も、サタンともろもろの悪霊どもは我らがしばらく、真理の帯を締めないようにさせ、分裂の霊たちが家庭と教会を惑わしています。

私たちがいつも胸にしっかり着けるべき胸当ては、イエスキリストの十字架の義、神様の義でした!

今日私たちは全身武具の中、胸当てがとっても大切であることを教えられました。私たちの体を守り、命の脈が流れている心臓を守ることが胸当てだからです。神は今日我らに、イエスキリストによる正義の胸当てをしっかり着けるように命じて下さっています。自分の義ではない、神が我らを愛するがゆえに与えて下さった十字架のイエスキリストの罪赦しと救いの義をしっかり心に受け止め、堅く信じ、抱き締めている時こそ、さまざまな悪しき者たちに対して、自分の人生と信仰を守り抜くことができます。そして、さらにこれからもどんな時にも対抗しつつ、進み行き、ついに勝利をおさめていける神の御力であることを覚え、今週もみんな揺るがずに守られ、勝利して生けるクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族一人一人となりますように主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン!